

平成 29 年 2 月 27 日

運営委員会

岩崎

街頭指導アンケート結果（報告）

街頭指導に関する保護者の意識調査について、web アンケートを活用し実施しました。下記、結果を報告します。

記

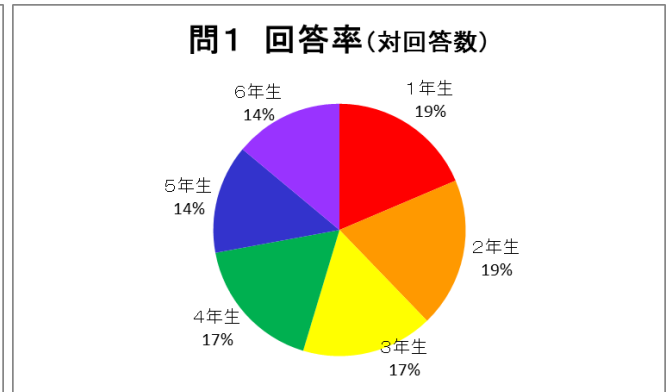
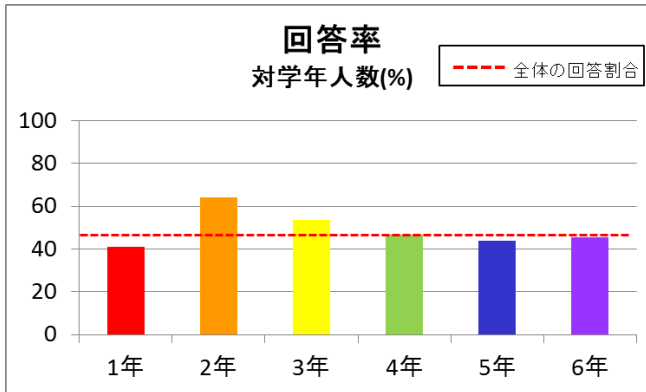
1. 実施期間 : 平成 29 年 2 月 10 日～2 月 25 日
2. 主 幹 : 本部役員会
3. 実施方法 : ①web アンケート (<http://enq-maker.com/>) 作成 (別紙 - 1 参照)
②学校メール、運営委員会だよりで、アンケート回答への協力を広報
③結果の分析、校外部資料の確認も並行して実施、結果の考察に反映させた
4. 考察のまとめ
 - (1) 今回のアンケート結果は、回答率が低いため、本会全体の状態ではなく、PTA 活動に関心や協力的な方々の状況を表したものと分析した。
 - (2) 高い参加率は、個人負担に頼る割合が高く、根強く残る「全員参加は平等」という考え方を改めるべき。本会の方針を明確にして、会員に伝え理解させるべきである。
 - (3) 日程調整は高い参加率に貢献しているが、運営のルールがないため公平性に欠ける。運営要綱を作成すべきである。
 - (4) 上記 (2) (3) 改善するまで、来年度の街頭指導の運営状況は、校外部に丸投げするのではなく、運営委員会が監視する必要がある。
 - (5) 事前調整廃止の理由に理解ない回答が多いと思われる。上記課題の改善後、廃止の理由を理解させる活動を実施した後、廃止するか否かを再検討するのがよく、来年度は見送るべきと考える。
 - (6) 事前調整なしを実行した場合に想定される「参加率低下」のバックアップ策として「特別会員によるサポート」を準備したが、これも理解されていない。両立させる（街頭指導日程調整、特別会員のサポートを共に継続）場合、保護者の街頭指導の人数を減らすか、配置場所を増やすことによって帳尻を合わせる方法が考えられるが、暫定措置としては大きな変更であり、ムダな中継策と考える。よって、一旦、解散することが良いと考える。
 - (7) 意見の自由記述は、内容を分類毎にまとめ、「別紙 - 2」に記す。

5. 考察

(1) アンケートの有効性

このアンケートは母集団全員に対して実施し、回答率が高ければ高いほど、母集団の状態を正確に表す。回答率は約48%という、低い結果となった。

アンケートに回答した方々は、PTA活動に理解や興味があり、協力的な集団と考えられ、回答しなかった方々は学校メールが届かない、webで回答できない、PTAに興味がないといった集団に分けられる。よって今回のアンケート結果は、PTA活動に協力的な方々の状況を表したものとして分析する。



学年別の回答率（学年の回答数÷各学年人数）のバラツキは、最も高かった2年生の62%、最も低い1年生41%で、約20%の広い範囲にあるが、回答数別の回答率（学年の回答数÷全回答数）は、14～19%の5%にあり、全学年から均等な回答を得られたと考えられる。

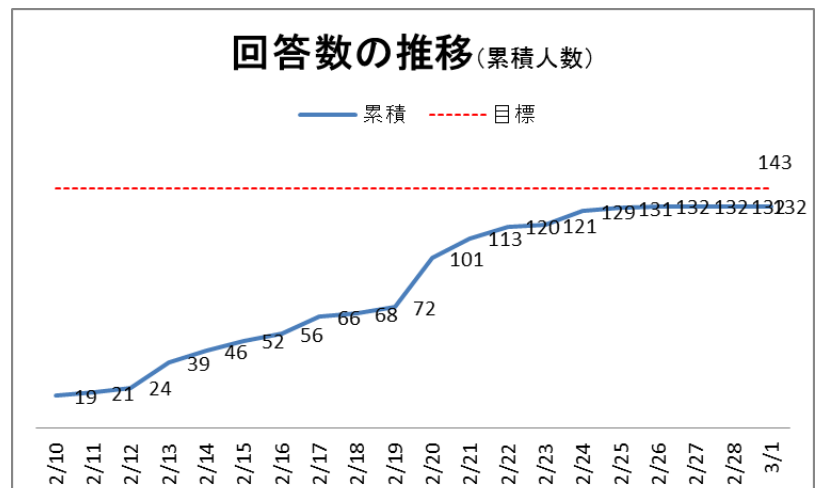
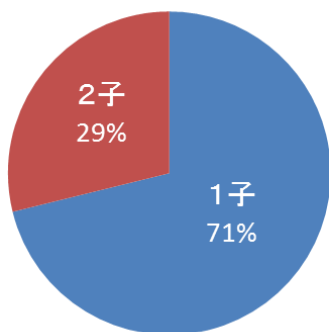
また、2子以上の児童を持つ方の回答率が29%、全体の2子以上の比率は21%であることから、このアンケート結果は、やや2子以上を持つ保護者よりの傾向がある。

口コミで回答依頼を実施すると増加する傾向があり、本会活動に対する理解を得るための活動方法に不足がある。

初めて実施したweb方法で回答できなかった、学校メールが届いていないなど不備がなかったかを確認する必要がある。

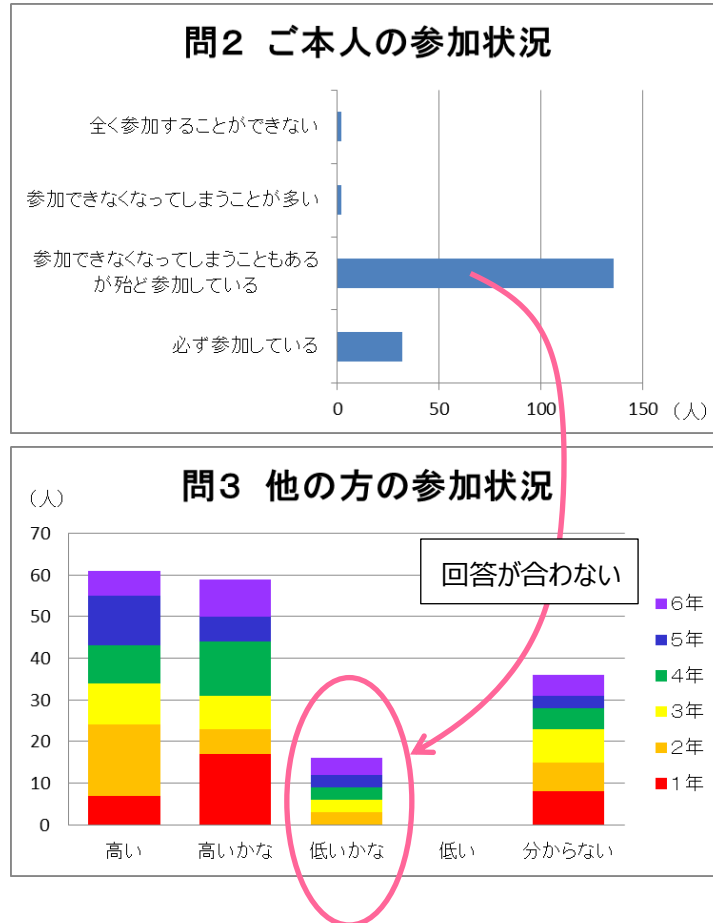
問1 回答者 児童数比率

2子以上の比率 20.6%



(2) 参加率の現状

問 2 からこの母集団は、保護者の街頭指導への参加方法や考え方はそれぞれ違うが、参加率、理解度が高い集団であると分かる。問 2 の結果を踏まえて問 3 の結果を見ると、他の方の参加率を「分からない」「低いかな」という回答する方が見られることから、この母集団以外の方々の様子を垣間見ているのではないかと推測する。

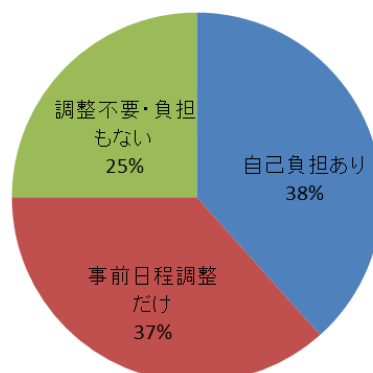


(3) 高い参加率の維持

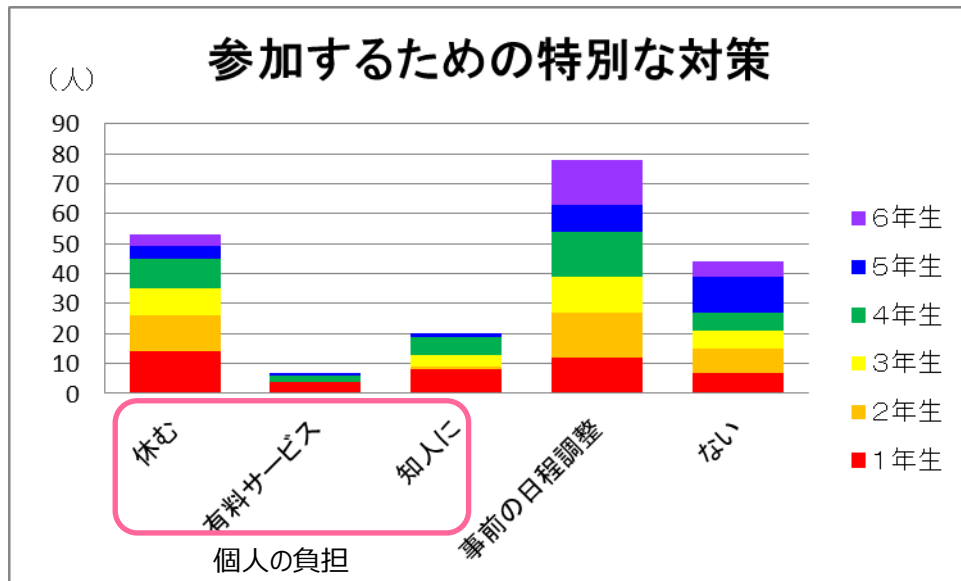
この母集団の方々が参加するために行っていることは、何らかの自己負担を行う（38%）、事前調整だけ（37%）、特別な対策はない（25%）であった。個人の負担率が 38%と高いのは、関心や協力的な母集団であるためか否かは分からないが、高い参加率は個人に支えられていることが明らかである。全体ではもっと違った傾向が得られる可能性がある。

この結果を踏まえ「全員参加するから平等である」という考えが間違っていると理解すべきである。

自己負担の割合



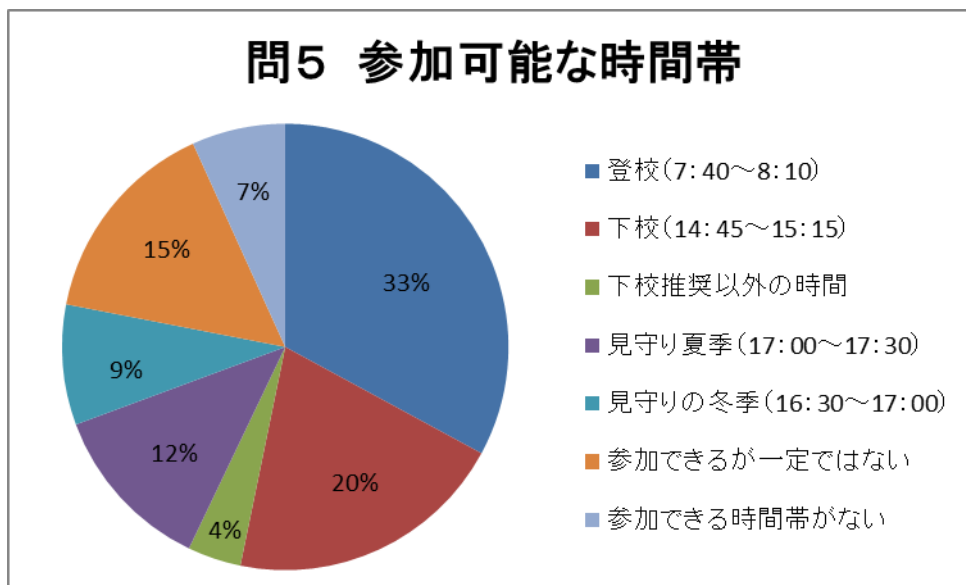
個人の負担を更に細かくみると、街頭指導のために有料サービスを利用する保護者が7名、仕事を休む保護者が53名であり、自己負担を行う保護者の比率は、すでに最も多く、今後も増加する傾向であると推測される。



事前日程調整による効果は高いものの、その運営要項は見たらなかった。よってルールが曖昧であり、公平性に欠けるため、ルールを明文化し運営委員会が承認するべきである。

(4) 時間帯

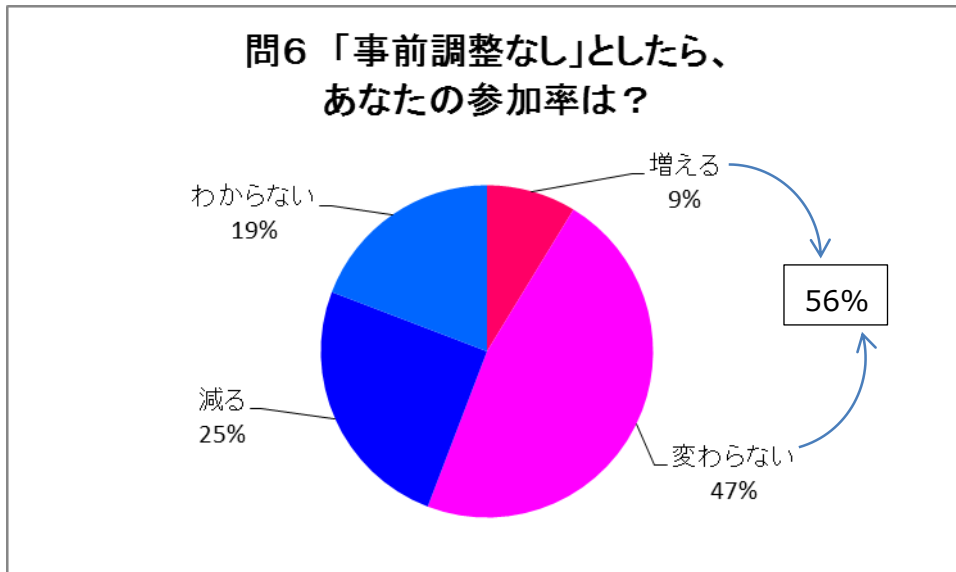
参加可能な時間帯は、登校、下校（14:45）の順で多かった。「一定ではない」が3番目に多いことから、当番計画を事前に作成することは有効である。



回答結果から下校時間帯だけに参加を希望する方がいるため、参加率の向上を図るための参考となる。

(5) 「事前調整なし」とした場合の参加率

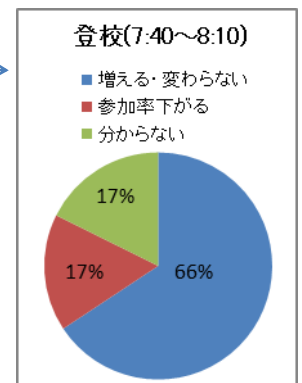
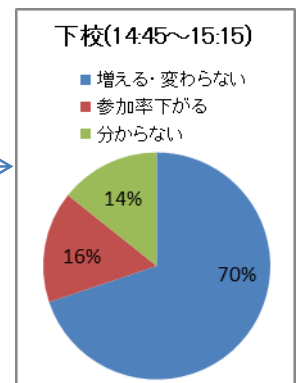
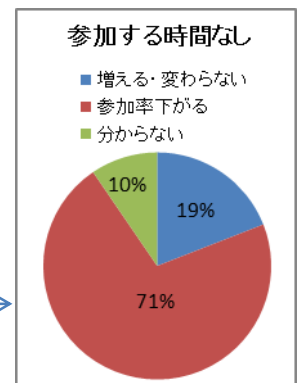
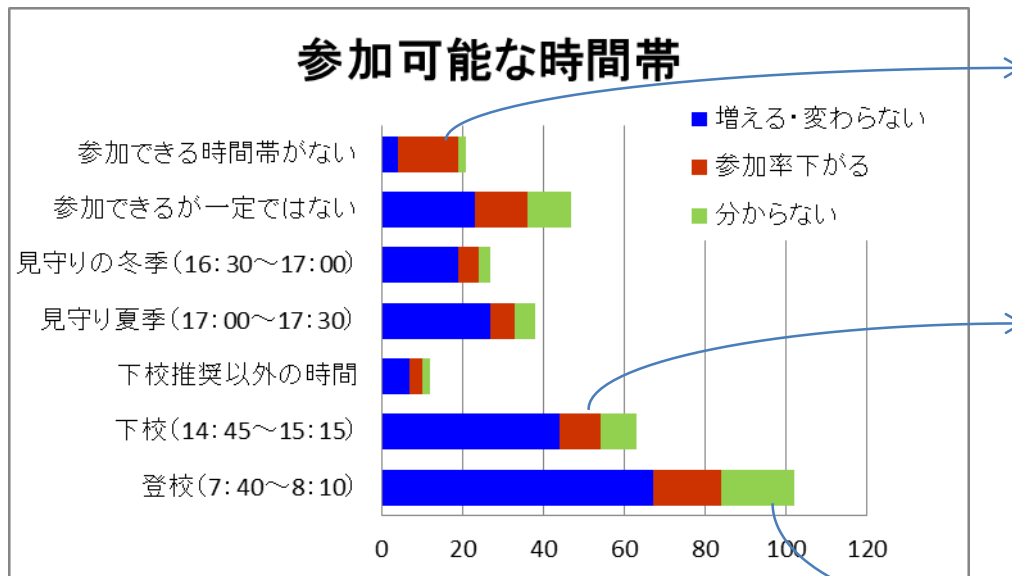
実行しても影響がない「増える+変わらない」が56%、「減る」25%、「分からない」19%であった。



これら3つの回答をした方々が、「参加可能な時間帯」の設問で、何を選択したかをみると次のグラフとなる。

「減る+分からない」を参加できない割合と考えると、最も参加率の高い登校時間帯で参加者が34%減少し、下校（14:45）では30%が減少する。

これを特別会員によるサポートによって補うことができるかが、課題である。



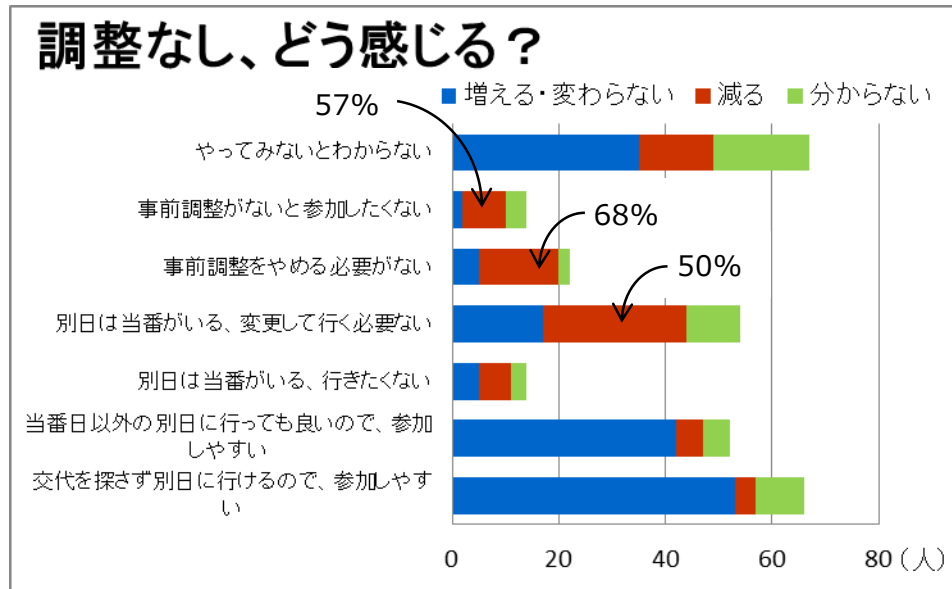
「参加可能な時間帯がない」と回答した21人の内15人（71%）が、「事前調整がなくなると参加率が低下する」と回答しているが、これは事前調整がなくなること以前の課題である。現状の高い参加率は容易に達成できるものでないことが分かる。

同じように、「調整なしについてどう感じるか」の回答に、これら3つの回答を組み込む

と次のグラフとなる。

「やってみないとわからない」が多いのは当然であるが、参加しやすいなど好印象な回答が多い。

「参加が減る」と回答している方は、「別日は他の当番の人がいるので、変更して行く必要ない」の割合が多かった。「調整がないと予定が合わないので参加できない」ではなく、別の理由（不公平感、不安）によって参加が減るのではないかと考える。



(7) 事前調整は高い参加率の要因といえるか？

事前調整は高い参加率に貢献しているのは確かである。

しかし、「問 8 街頭指導に対する意見」から「街頭指導は強制や義務」という雰囲気が高い参加率に大きく寄与していることが分かる。

よって、事前調整の効果は「強制や義務」に増幅されていると推測できる。「NO」と言えない「負担度が大きい、または、理解度が低い」保護者を巻き込んだ成果であり、ボランティア活動の結果とは言い難い。更に、女性の社会進出が進む、時代の変化に対応できない活動と言える。

負担とを感じる方々にとって、現状の事前調整は「強制や義務という雰囲気を助長するもの」でしかないと推測する。

改善を進める場合、妨害に負けないよう、本部役員会や運営委員会が力を合わせる必要がある。まずは、本会が街頭指導の方針や目的を明確にした活動要綱を作成し、次に会員の誤解を解く手順がよいと考える。

(8) 意見の自由記述

別紙－2 参照

以上